

地位の真理

この学び全体のアウトラインと本日の内容

1. イントロダクション (総論 七つの項目)
2. 各論 33 の事柄
3. 結論

6 月から 11 月までに、各論の第 17 「天の市民である」までを学びました。

本日は、各論の第 18 「神の家族である」から第 25 「すべての霊的祝福を所有している」までを学びます。

前回までの内容の確認

イントロダクション 総論 七つの項目

1. キーワードは「キリストにあって」「イエスにあって」「イエス・キリストにあって」「キリスト・イエスにあって」「彼にあって」「その方にあって」
2. 信者が持つ地位と実際の生活との関係
 - (1) 信者が持つ地位 (メシアの中にあるという地位) と、それにつながる 33 の事柄は、神の目から信者を見たときの真実である。
 - (2) 信者の実際の生活を人間の目から見ると、そういう地位にあるようには見えない。
 - (3) 信者の人生における歩みを、信者の持つその地位にふさわしいものにしていくこと、これは聖霊の働き「聖化」である。
 - (4) サタンや悪霊との戦いにおいては、信者の実際の生活がどうあるかではなく、メシアの中にある地位とそれに伴う権威によって対抗する必要がある。
3. その地位につくための経路は、聖霊のバプテスマである (I コリ 12 : 13)。
4. その地位が与えられた源は、神の恵みである (エペソ 1 : 6、2 : 7)
5. その地位は、信者の権威の基盤である (エペソ 1 : 18~19)
6. その地位に伴う権威を行使することは、サタンに対する最良の防御である。
7. 「キリストにあって」というキーワードと並んで、メシアと信者との関係を教える重要な表現「キリストと共に」・・・神の目から見たとき、信者はメシアと同一の者と見られている。十字架からスタートして全部で 8 つの展開【キリストと共に、十字架につけられた・死んだ・葬られた・生かされた・復活させられた・苦しんでいる・栄光を受けるであろう・共同相続人となるであろう】。そのすべてが、救いの結果である。神の恵みであって、人の働きではない。

各論 33の事柄

1. 神によって贖われた者である
2. 神と和解させられた者である
3. 神の怒りはなだめられており、神は私に怒ってはおられない
4. 神から赦しを受けている者である
5. 神から義と認められた者である
6. 神からの栄光を受ける者である
7. 闇の支配から解放された者である
8. 心の割礼（キリストの割礼）を受けた者である
9. 神に受け入れられる者である
10. 聖霊の初穂（初なりの実）をいただいた者である
11. 神の永遠の計画の中にある者である
12. 岩なるメシアを土台として立つ者である
13. アブラハム契約に近い者とされた【異邦人信者にとって】
14. 聖なるそして王なる祭司のメンバーとされた
15. 神の国に移された者である
16. 選ばれた種族、聖なる国民、神の所有とされた民【ユダヤ人信者にとって】
17. 天の市民である

本日の内容

18. 神の家族である
 - (1) 信者は神の家族の一員、神の建物の一部分である。
 - ① I コリ 3 : 9 あなたがたは神の畑、神の建物です。
 - ② ガラ 6 : 10 信仰の家族の人たち
 - ③ エペ 2 : 19~22 神の家族、組み合わせられた建物、神の御住まい
 - ④ I ペテ 2 : 5 あなたがたも生ける石として、霊の家に築きあげられなさい
19. 神から愛され、養子とされた者である
 - (1) 信者は神の養子とされ、神の子となった
 - ① ロマ 8 : 15 奴隷の霊を受けたのではなく、養子の霊 (a spirit of adoption)
 - ② ロマ 8 : 23 養子にさせていただくこと、すなわち、私たちのからだの贖われることを待ち望んでいる
 - ③ ガラ 4 : 4~6 律法に逆戻りしようとするガラテヤの信者たちへの教え
 - 神は御子イエスを、女から生まれた者（人）、律法の下にある者（ユダヤ人）となさった
 - これは律法の下にある者たち（ユダヤ人）を贖い出すため、その結果、

私たち（ユダヤ人信者）が、養子たち（the adoption of sons ギフイオテーシア）となるためである。

◆ 「イエスはユダヤ人であり、律法を守った。よってイエスを信じる者も、律法を守らねばならない」という教えは、誤りである。

- そして、あなたがた（異邦人信者）は（律法を守らなくても）子たち（sons ギフイオス）である（現在の地位）から、神は御子の霊をあなたがたの心に送ってくださった（過去）、（だからこそ、今、あなたがたは）「アバ、父」と叫んでいる（現在の状態）。

(2) 神は、信者一人ひとりを愛して選んで養子としてくださった。エペ 1: 4~5

20. 神の子たちである

(1) 第 19 番目からの続きである。信者は神の養子とされ、その結果、神の子である
ヨハ 1: 12、ロマ 8: 16、I ヨハ 3: 1~2

(2) この地位には 4 つの意味がある

① 信者は、神によって生まれた者である

- I ヨハ 5: 1 神によって生まれた
- I ペテ 1: 23 あなたがたが新しく生まれたのは・・・

② 信者は、かつて罪・過ちの中で死んでいたが、神によって生かされた

➤ II コリ 5: 14~15

- ◆ キリストの愛が私たちを取り囲んでいる。
- ◆ 私たちはずっとこう考えている。
- ◆ ひとりの人（キリスト）が、すべての人のかわりに死んだ。ということは、すべての人は（神の目からは）死んだ。
- ◆ そして、彼が、すべての人のために死んだ。ということは、今生きている人々は（いったん死んで生かされている）、もはや自分たち自身に向いて生きるのではなく、そのひとりの人に向いて生きるのです。（その人は）自分たちのために死んで、（神によって）よみがえらされたお方です。

➤ エペ 2: 5

➤ コロ 2: 13

③ 信者は神の子たちである。子たち（sons）というヘブル語は、「支持者、従う者（followers）」という意味も持っている。「契約の子たち」というときには、その契約に従う者という意味である。

➤ ロマ 8: 14 信者は神の子たちという地位をもっているから、神の御霊に導かれる（聖霊の導きに従うことができる）

➤ その他の箇所 II コリ 6: 18、ガラ 3: 26、4: 6~7、I ヨハ 3: 2

④ 信者は新しい被造物である

- II コリ 5 : 17 新しく造られた者
- ガラ 6 : 15 新しい創造
- エペ 2 : 10 良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られた(文脈上、ここではユダヤ人信者を指す)
- エペ 4 : 24 神にかたどり造り出された、新しい人
- コロ 3 : 10 新しい人を着た。新しい人は、造り主のかたちに似せられて、ますます新しくされ、真の知識に至る。

21. 聖徒たちの交わりの一員である

- (1) 信者たちは一つとなる、交わりを持つ
 - ① ヨハ 17 : 11 わたしたちと同様に、彼らが一つとなる
 - ② ヨハ 17 : 21~23 彼らが一つとなる、彼らも一つである、彼らが一つとなる
 - ③ I ヨハ 1 : 3 あなたがたも私たちと交わりを持つようになる
 - ④ I ヨハ 1 : 7 私たちは互いに交わりを保ち
- (2) 適用 : この地位は、信者の間での一致の基盤である。信者たちが一つになることができるのは、信者たち全員が、聖徒たちの交わりの一員という地位を持つから。

22. 主にあって光、光の子たちである

- (1) 信者は、世界の光(マタ 5 : 14)のみならず、主にあって光、光の子(エペ 5 : 8)である。
- (2) 光の子だから、信者は光の中を歩くことができる。信者の実際生活は、その地位にふさわしいものにならねばならない。光の子としての地位を持つ信者は、その実際生活においても、光の中を歩むように努めるべきである。
- (3) 適用 : I テサ 5 : 4~9 信者は光の子ども、昼の子どもである。これに対して、大患難期、すなわち「主の日」(2 節)とか「御怒り」(9 節)と呼ばれる時期は、暗やみの時である。教会の聖徒たちは、決して大患難期を通ることはない。

23. 天と連帯する者である

- (1) 信者は、天との特別な連帯関係、すなわち、メシアのパートナーとしての地位にある。
- (2) 信者は、次の 7 つの意味においてメシアのパートナーである。
 - ① メシアは、信者を通して働く。もちろん信者は自分の人生を生きる責任を依然として持っているけれども、信者はメシアにあって生きている者、もはや私ではなく、メシアが私を通して生きておられるという地位にある。
 - ガラ 2 : 20
 - コロ 3 : 3~4
 - I ヨハ 5 : 11~12

- ② メシアは天に上り、父なる神の右の座についておられる。メシアは大祭司として信者たちのためにとりなしておられる。その天の所に、信者もメシアと共にいる。
- エペ 2 : 6
 - コロ 3 : 1~3
- ③ メシアはヤハウェのしもべとして、父なる神によってこの世に遣わされた。メシアは「仕えられるのではなく、仕えるために」来られた。同じように、信者は、メシアによってこの世に遣わされている。メシアは、信者を通して、今も、この世に対して「仕えられるのではなく、仕えるために」働こうとしておられる。信者はメシアにあって、メシアと同じヤハウェのしもべの地位にある。
- マタ 20 : 25~28
 - ヨハ 17 : 18、20 : 21
- ④ 信者は、メシアの苦しみに与る（あずかる）者である。メシアは苦しまれた、そして信者もまた、苦しみを通るであろう。苦しみに遭うのは、必ずしも「霊性が欠けているしるし」ではない、むしろ反対に、「真に霊的であることのしるし」でもあり得る。
- ロマ 8 : 17 キリストと苦難をともにする
 - II コリ 1 : 5 私たちに苦難があふれている
 - ペリ 1 : 29 あなたがたは、キリストのために、キリストを信じる信仰だけでなく、キリストのための苦しみを賜ったのです
 - ペリ 3 : 10 キリストの苦しみにあずかる
 - II テモ 2 : 9~10 苦しみを受け、・・・耐え忍ぶ
- ⑤ 信者は、祈りにおいてメシアのパートナーである。信者が祈る、するとメシアは、その信者のために祈り、またその信者といっしょに祈ってくださる。信者の祈りでは、イエスの御名によって祈ることが必要なのは、そのためでもある。
- ヨハ 14 : 12~14 あなたがたがわたしの名によって求めることは・・・
 - ヨハ 16 : 23~24 あなたがたが父に求めることは何でも、父はわたしの名によってそれをあなたがたにお与えになる
 - I ヨハ 5 : 14~15 何事でも神のみこころにかなう願いをするなら・・・
- ⑥ 信者は、メシアとの関係では婚約関係にある。メシアは花婿、信者は花嫁である。

- II コリ 11 : 2 → 3～6 節 正しい知識をもつことの重要性
- エペ 5 : 25～27

⑦ 信者は、メシアの再臨を待ち望むということにおいてメシアのパートナーである。

- テト 2 : 13 キリスト・イエスの栄光ある現れを待ち望む
- ヘブ 9 : 28 二度目は、罪を負うためではなく、彼を待ち望んでいる人々の救いのために来られる

24. 完全な者である

- (1) コロ 2 : 10 信者は、メシアにあって「満ち満ちている」
 - ① コロ 2 : 9 メシアのうちには、「神の満ち満ちたご性質（完全というご性質）」が形をとって宿っている。
 - ② コロ 2 : 10 そのメシアにあって、信者は満ち満ちている者、すなわち完全な者である。
- (2) 適用：信者は、実際面で、自分の生き方に多くの欠けたことがあろうとも、メシアにあって完全な者である。「完全な者」という地位を受けているがゆえに、信者は完全である。

25. すべての霊的祝福を所有している

- (1) 信者は、霊的祝福を求めてもだえ苦しむ必要はない。祈って求めて、それが与えられるのを忍耐強く待つ、ということも必要ない。また、霊的祝福を得るまで祈り抜く、ということも必要ない。
- (2) 信者は、すでに、あらゆる霊的祝福を所有している。
 - ① エペ 1 : 3 神はキリストにあって、天にあるすべての霊的祝福をもって、私たちに祝福してくださいました。
 - ② I コリ 3 : 21～23 すべての、あなたがたのもの
- (3) あとは、それを信者が実際に体験して喜ぶかどうか、だけです。宝の持ち腐れにならないようにしましょう。